

資料編



町内会・自治会アンケート調査

調査期間：平成18年3月～5月

実施主体：川崎市市民局地域振興課

(現 川崎市市民・子ども局市民協働推進課)

● 調査目的

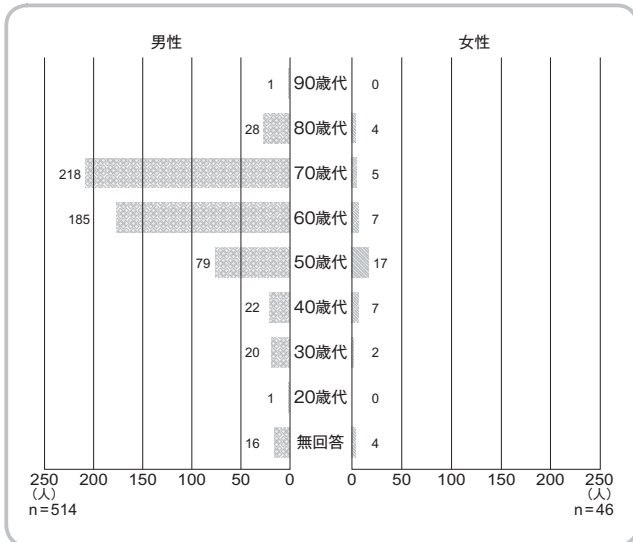
町内会・自治会は市民により自主的に運営され、互いの連帯意識を深めながら、防災・防犯活動や美化活動などを通じて、その地域に生ずるさまざまな共通の課題を解決する地域を代表する重要な組織で、住み良いまちづくりを目指して活動している住民自治組織です。

しかし、近年の都市化の進展により、地域における人と人とのつながりが希薄になっている状況などから、町内会・自治会が抱えている課題やニーズも多種多様になっています。

このアンケートは川崎市の町内会・自治会が抱えている課題やニーズを調査し、今後の町内会・自治会の振興に向けて施策を実施する際の参考資料にすることを目的に実施しました。

● 町内会・自治会長について

1-1 会長の年代・性別について



全市的に見ると75%以上という圧倒的な多数が60～70代の男性会長です。中でも70代は4割を超えているのに対し、女性会長は50代がピークを示しています。地域ごとに見ていくと、川崎区は70代以上男性が72.4%である一方、麻生区では37.9%と50代以下の男性の比率が高く、早くから開発が進み人口流入が早かった南部と、その後宅地開発が進み急激な人口増加があった北部という川崎市の地形的な特徴が表れています。また、北部にいくほど女性会長が多く、麻生区の18.6%を筆頭に高津区以北の各区は8%を超えています。

● 調査対象

川崎市内の町内会・自治会などの住民組織のうち、平成17年4月1日現在の調査で確認され、各区役所・支所・出張所に解散の届出が出されていない団体、および平成17年中に新規団体として届出のあった団体の代表者640人。

● 調査区分

全数調査（全団体に対して調査を実施）

● 調査期間

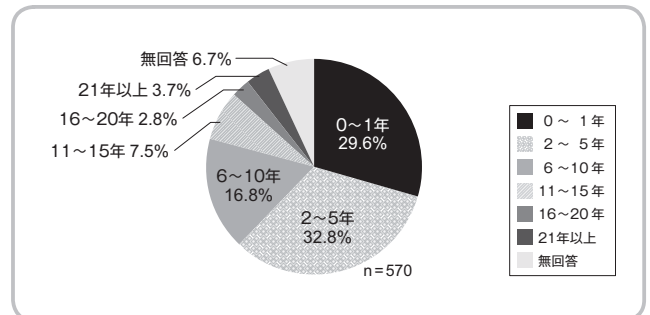
平成18年3月～5月

● 回収状況

有効回収件数570件／有効回収率89.1%

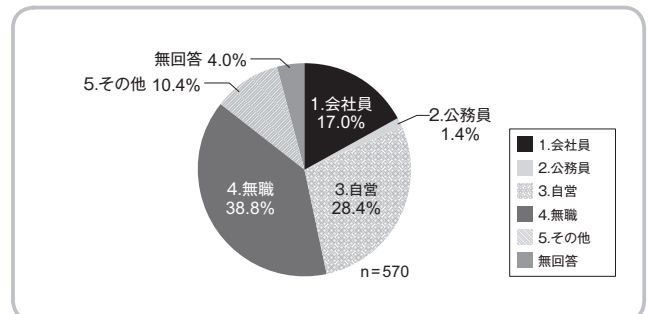
※本文中の「百分率」は小数第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100にならない場合があります。

1-2 会長の在職年数



全市的には「2～10年」がほぼ半数を占めますが、中には21年を超える会長も4%弱、見られます。麻生区では「1年以内」の回答が54.0%と半数以上を占めます。区内には集合住宅や団地が多く、輪番制で町内会・自治会長を選出している傾向が読み取れます。

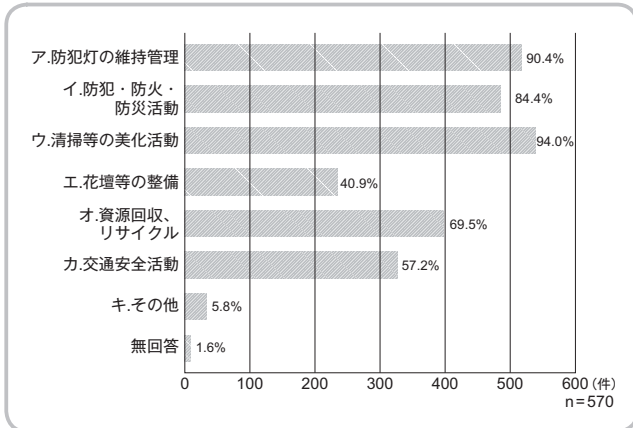
1-3 会長の職業



「自営業」と「無職」が67.2%を占め、その他に含まれる職業を含め、町内会・自治会長は時間に融通が利かないと務まりにくい仕事であることがわかります。

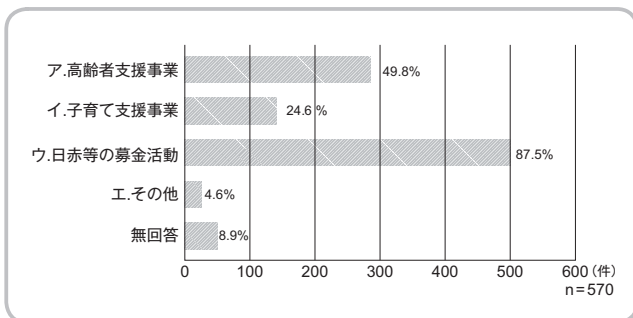
● 町内会・自治会の取り組み

2-1 環境整備事業(複数回答)



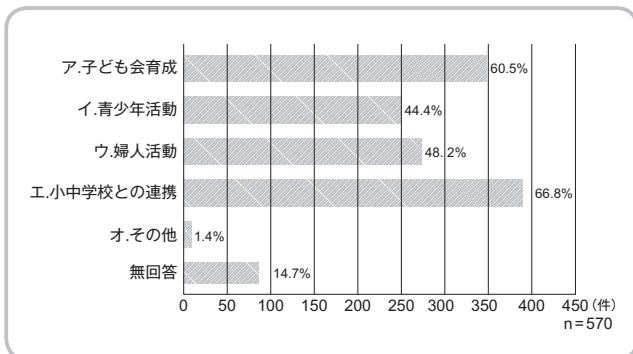
90%を超える「防犯灯の維持管理」「清掃等の美化活動」など、多くが防犯・美化活動に取り組んでいます。他には放置自転車撤去や公園・グラウンドの管理など。

2-2 社会福祉事業(複数回答)



「日赤等の募金活動」は90%近くが実施。社会の少子高齢化を反映して、南部を中心に「高齢者支援事業」、中原区では「子育て支援事業」が充実してきました。

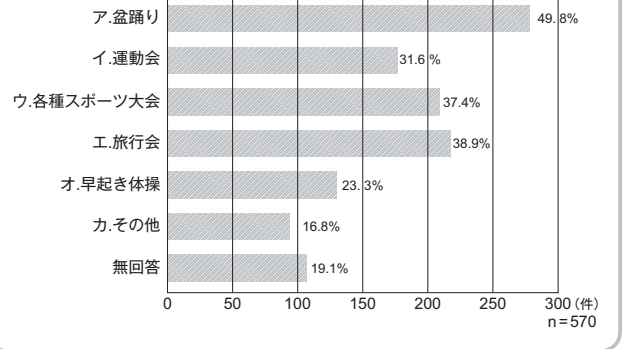
2-3 社会教育事業(複数回答)



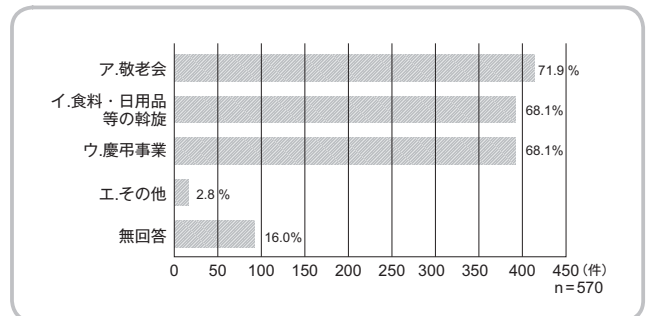
「小中学校との連携」「子ども会育成」と子どもに対する活動が多く、多くの団体で子どもたちやPTAにコミュニティづくりの接点を求めています。

2-4 レクリエーション事業(複数回答)

「盆踊り」など地縁的な行事が強いですが、町内会・自治会・地域によって多彩な取り組みが見られます。「その他」には祭礼、フリーマーケット、懇親会・茶話会、花見会、寄席、歩こう会などがあります。

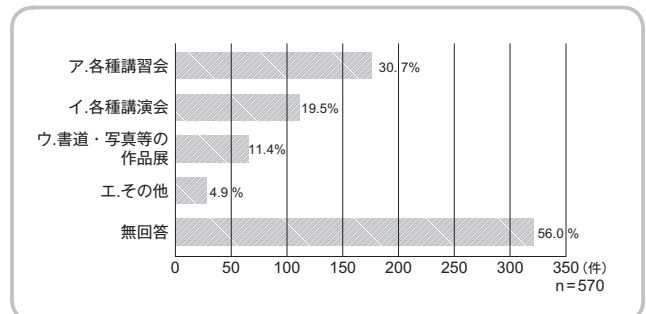


2-5 福利厚生事業(複数回答)



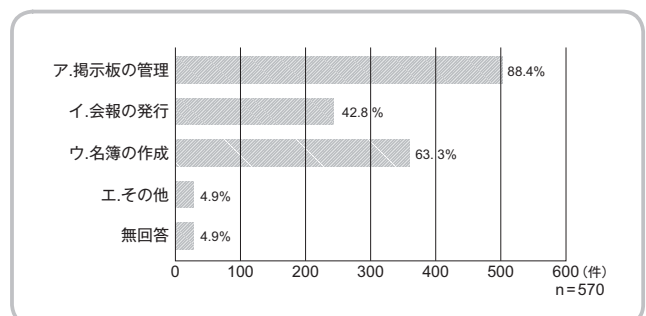
全市的に7割を超える「敬老会」ですが、川崎区・幸区では、95%近い実施があります。他に健康相談やミニサロンの開催など、団体ごとに工夫があります。

2-6 文化事業(複数回答)



「その他」はパソコン講習会、文化祭、図書の貸し出しなど。最も実施されている「各種講演会」も30%程度で、これから新しい事業が期待できる分野です。

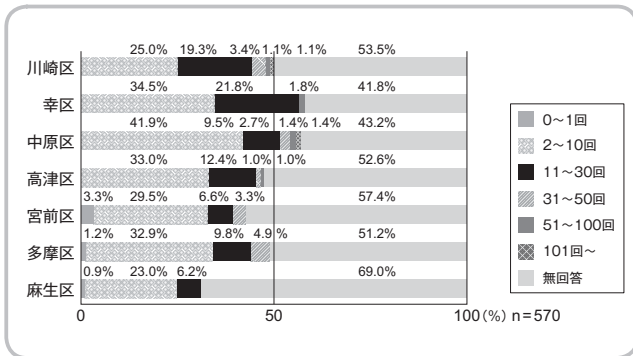
2-7 広報事業(複数回答)



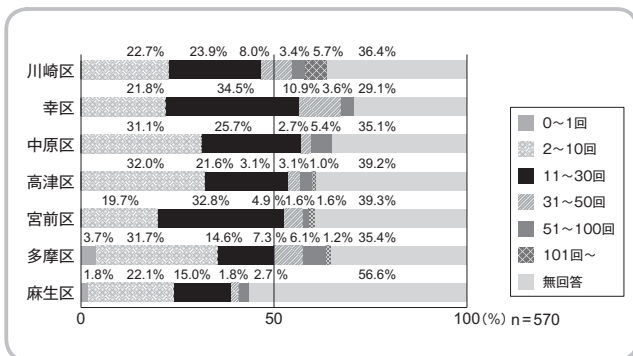
「掲示板の管理」は9割近くが実施。各項目とも全市的にばらつきなく平均化しています。新しい事業として、ホームページ作成、CATV放送などがあります。

● 町内会・自治会と行政

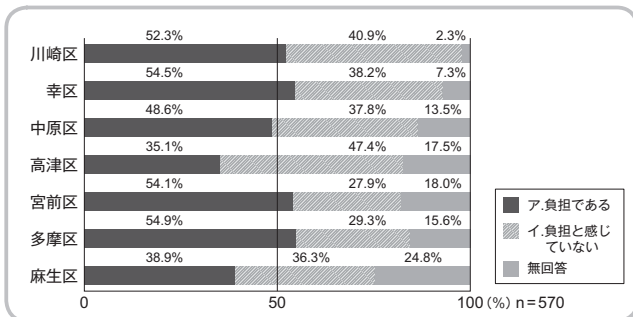
3-1 事業協力依頼回数について



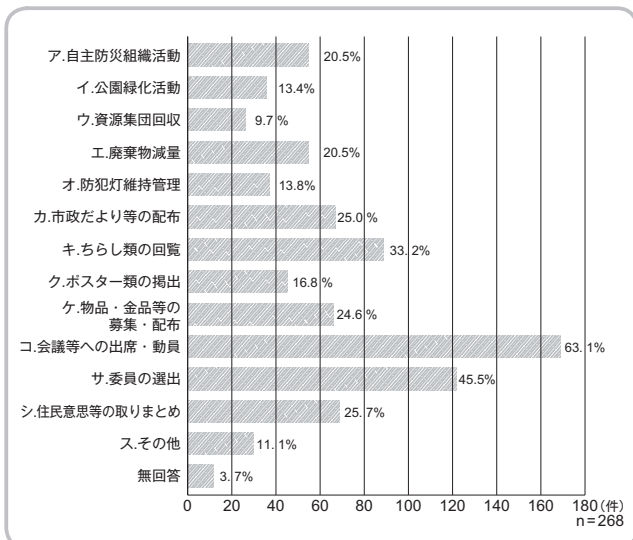
3-2 会議出席依頼回数について



3-3 会議出席依頼の負担感について

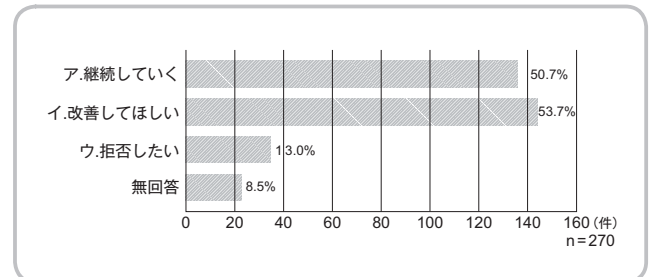


3-4 負担を感じる事業について

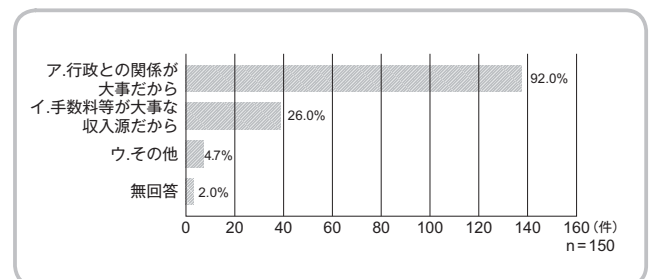


「事業協力依頼回数」「会議出席依頼回数」は団体によって回数の開きが大きく、「負担に感じる」という「会議などへの出席・動員」「委員の選出」が上位にあげられています。会長の負担軽減と町内会・自治会の健全な運営のために見直しを考える必要が出てくるでしょう。

3-5 負担が大きいと感じた事業の改善について



3-6 負担が大きいと感じた事業を継続する理由



「負担が大きいと感じた事業への対応」に対しては、「継続していく」と、行政から依頼された事業に理解を示す町内会・自治会が半数を超えますが、それ以上に「改善してほしい」という要望も出ています。今後、行政側も事業の見直しや改善の検討が必要です。

3-7 負担が大きいと感じた事業に対する改善要望(自由回答)[全般]

- 行政でイニシアチブを取ってほしい
- 手続きを簡素化してほしい
- 行政の局部間の横の関係をスムーズにしたい
- 住民の意見を反映させる方法を考えてほしい
- 組織の整理・合理化が必要

[広報関係]

- 広報物は役所で各戸配布を考えてほしい
- 回覧の大きさをA4に統一してほしい
- 回覧類は一度に持ち込んでほしい
- 市政だよりの新聞折込み、民間委託を希望
- 自治会が高齢化し、広報誌の配布が大変

[会議出席依頼関係]

- 会議の削減や開催時期など調整してほしい
- 関連・類似団体の会議、賀詞交換会の統合
- 勤務のため出席が不可能。夜間開催にしたい
- 出席しないと助けてもらえない風潮がある

[各種事業実施依頼関係]

- 毎年同じ事業を実施。改善策を考えてほしい
- 募金活動の回数を少なくしてほしい

- 役員の高齢化で体力的に無理な事業が多い
- 申請書・報告書の提出が細かすぎる
- 国勢調査の調査範囲を町会内にとどめてほしい
- 行事の実施は地域の実態に合わせてほしい

4-1 町内会・自治会が行っている特色のある活動

(自由回答／一部要約)

[レクリエーションの実施]

- 秋の子ども祭り、映画大会、カラオケ大会、役員旅行、婦人部旅行といったイベントや歌う会、囲碁の会、まちの縁側など各種同好会を作り、住民の参加機会を広げる
- 運動会、グラウンドゴルフ、体操、ラジオ体操などスポーツを通じコミュニケーションを図る
- チャリティーバザーで社会福祉団体に寄附
- 商店街活性化を願いフェスタ開催

[共通課題の設定]

- 美化パトロール・防犯パトロールの実施
- 巡回による不法投棄物の処理
- まちづくり勉強会や未来プランの策定
- 公園清掃、花壇づくり、グリーンベルトの手入れ
- ボランティアによるパソコン教室
- 資源回収、リサイクルボランティア
- 廃棄物減量指導員による年末年始のゴミゼロ作戦
- 小学生の登下校時の子どもサポート隊を設置
- 単身高齢者向け配食サービス
- 声かけ運動・わんわんパトロール・防犯用立看板
- 公園の管理運営による地域コミュニティの活性化

[他団体との連携]

- 連合町内会活動が必要
- 地元小学校との連携
- 外郭団体との連携を図り、参加協力を得る
- ボランティアへの助成や連携した活動
- 他町会との合同の秋祭り

[運営方法の工夫]

- 行事は会員が楽しく協力できる内容に
- 現役世代が多く、会長業務を分担制に
- 会長は3年、他の役員は任期1年の順番制
- 班ごとに入居年代順に役員を選ぶ

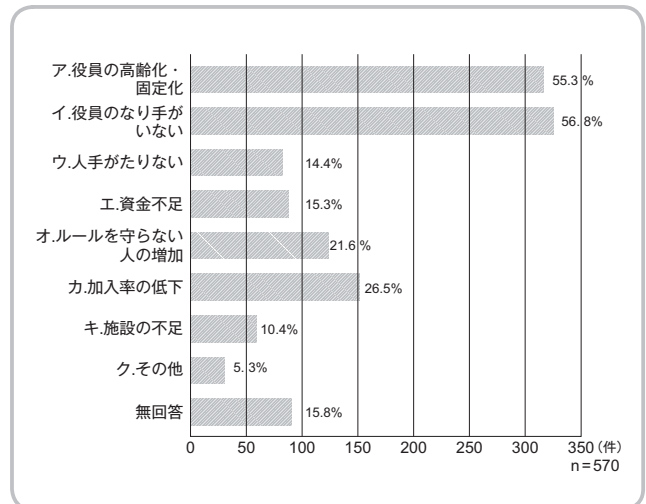
[若い人を呼び込む]

- 子ども会や婦人会に取りまとめを依頼
- 青年会が町内会活動で大いに活躍。積極的な協力も
- 小学校への入学祝いなど、親子を中心に情報収集
- 行事など、子どものための多彩な取り組み

[コミュニケーションを密にする]

- 清掃活動実施後、講演会などを開催し、住民が交流
- おみやげや危機感をおおるなど心理作戦も必要
- 災害時の近隣支援・協力を周知させる
- あいさつ運動を励行
- 使用目的を限定した会員台帳を作成

5-1 町内会・自治会の現代の課題改善について(自由回答)



「役員の高齢化・固定化」「役員のなり手がいない」が全市域で半数を超え、町内会・自治会活動の担い手不足がうかがえます。その傾向は特に南部に強く見えます。

5-2 課題解決に向けた取り組み(自由回答／一部要約)

[全般]

- 中高年層へ自治会活動の積極的な参加を依頼
- 加入率低下のため、特別会員に協力を依頼
- 町会費の用途などを広報活動で理解してもらう
- 単年度制を設けて役員の高齢化を防止
- 役員の負担軽減のために役割分担制にする
- 役員の高齢化を防止
- 役員に女性が多く、男性へ参加を呼びかけ
- 災害に備え、備蓄米を購入
- 町内会費の値上げ、活動費の削減を検討

[マンションなどへの働きかけ]

- 若年者層の加入促進と役員候補者の掘り起こし
- 不在住事業者に対する町内会加入勧奨
- 賃貸住宅建築時に、オーナーなどに入会を依頼

[若い人々への働きかけ]

- 自治会の組織改革、若年層の活動の参加
- 行事を通じ、参加しやすい町会を目指す
- 子ども会活動を増やすことで親の参加を促す
- 役員の金銭的な負担を軽減
- 若いパワーを活用。若手の参画意識を高める

[話し合い]

- 連帯感のPRと報告・相談の実施
- 意思疎通の円滑化。情報開示

[共通課題]

- 防災器具の保有
- 地域の連帯性、地域教育力の強化、活性化を模索
- サークル活動を行い、交流に役立てている
- 会員の親睦を高め、高齢化した会員の孤立を防ぐ

[要望]

- 新住民の加入率が低い。いい方法のご教示を
- 転入者への自治会加入を行政からPRしてほしい